

令和4年度

シラバス (講義概要)



土浦協同病院附属看護専門学校

基礎分野

基礎分野(13 単位 330 時間)

1.ねらい

専門基礎分野・専門分野の基礎とし、科学的思考力及びコミュニケーション能力を高め、感性を磨き自由で主体的な判断能力を養う。

2.科目構成

	科目名	単位数	時間数	履修年次	項
科学的思考の基盤	論理学	1	30	1年次	
	物理学	1	15	1年次	
	情報科学	1	30	1年次	
人間と生活、社会の理解	心理学	1	30	1年次	
	倫理学	1	15	1年次	
	社会学	1	30	1年次	
	教育学	1	30	1年次	
	体育	1	15	1年次	
	運動と健康	1	15	2年次	
	外国語	1	30	2年次	
	人間関係論	1	30	1年次	
	コミュニケーション論	1	15	1年次	
	カウンセリング	1	30	2年次	
	文化人類学	1	15	1年次	
		14	330		

科目名	論理学	単位数	時間	履修年次
		1	30	1年次前期
講師名	生越 達	授業形態	講義	
ねらい	すじみちを立てて、物事を考える論理的表現を学ぶ。			
目標	1.思考の概念を理解できる。 2.論理的に言語表現し、文章化できる。 3.自由で主体的な意見を発言し議論する。			
講義内容 (概要)	1.思考の概念	1)思考とは 2)反省的思考(複眼的思考) (1)看護の権力性と共感的理解 3)論理的思考について (1)演繹法 (2)帰納法 4)想像的・創造的思考 (1)盲点・今昔視・先入見 (2)立場性・状況性・回顧性・複層性 *エコグラムの実施		
	2.論理的言語表現	1)論理と言語化 (1)論理的に考える：推論		

	2)論理と文章化 (1)文章作成の基本 (2)文章の構成要素 (3)レポート・報告書の書き方 【演習】
評価方法	・筆記試験
使用テキスト	・使用しない(資料配布)
備考	

科目名	物理学	単位数	時間	履修年次
		1	15	1年次前期
講師名	大崎 象平	授業形態	講義	
ねらい	物理的諸現象を理解し、日常生活や看護の場面での物理学の考え方を学ぶ。			
目標	1.日常生活と物理学との関係を理解できる。 2.看護と物理学との関係が理解できる。			
講義内容 (概要)	1.力学の基礎	1)体位変換の原理 2)摩擦力		
	2.剛体の力学	1)トルク 2)重心 3)支持基底面		
	3.流体・圧力	1)密度・圧力(気圧、酸素ボンベ) 2)アルキメデスの原理 3)エネルギー保存則 4)ベルヌーイの定理		
	4.熱現象	1)熱量 2)熱流束 3)ポアソン分布		

	5.音・光に関する現象	1)電気 2)音波 3)光
評価方法	・筆記試験	
使用テキスト	・新体系看護学全書<基礎科目>物理学、メヂカルフレンド社、2020	
備考		

科目名	情報科学	単位数	時間	履修年次
		1	30	1年次後期
講師名	伊藤 悠椰、森村 洗生、羽生 佳代子	授業形態	講義、演習	
ねらい	情報科学の基礎理論を通し、看護情報の処理の方法を学ぶ。			
目標	1.情報科学の基礎を理解できる。 2.看護における情報を理解できる。 3.情報通信技術(ICT)と活用を理解できる。			
講義内容 (概要)	1.情報と情報社会	1)情報の定義と特徴		
	2.保健医療における情報	1)保健医療と情報 2)看護と情報(看護支援システム) 3)医療における情報システム 4)情報通信技術(ICT)とは…ICTを活用しての情報の集め方・見極め方		
	3.情報と倫理	1)個人情報の保護 2)コンピューターリテラシーとセキュリティ		

	4.情報処理	1)Excel の基礎 (1)表の作成 (2)関数 (3)絶対参照と相対参照 (4)グラフの作成 (5)実データの処理 2)Word での文章作成 3)プレゼンテーション演習：Power Pint
評価方法	・筆記試験 ・演習課題提出 ・レポート	
使用テキスト	・中山和弘、系統看護学講座 別巻 看護情報学、医学書院、2021	
備考		

科目名	心理学	単位数	時間	履修年次
		1	30	1年次後期
講師名	山本 哲也	授業形態	講義	
ねらい	人間の行動と心の働きの関連性を学び、人間を理解するための基礎とする。			
目標	1.心の働きを理解できる。 2.心と行動の関連性を理解できる。 3.自己や他者の心理や行動を理解できる。			
講義内容 (概要)	1.心理学とは	1)感覚 (1)定義 (2)錯覚 2)知覚 (1)定義 (2)内的条件・外的条件		
	2.認知:感覚知覚、記憶・想起、言語、知能性格(性格検査)			

		3)対人認知：初頭効果・親近効果・ハロー効果他 *自己紹介・他者紹介 4)記憶 (1)定義 (2)記憶の喪失 (3)分類 (4)プロセス (5)忘却、変容
	3.行動	1)基本的欲求、学習
	4.社会・集団の心理	
	5.交流分析	
	6.生涯発達心理学	1)発達の定義、発達段階、発達課題、発達の規定要因 2)胎児期・乳児期・児童期～老年期、終末期
評価方法	・筆記試験 ・レポート(性格分析レポート ・期末課題レポート)	
使用テキスト	・使用しない(資料配布)	
備考		

科目名	倫理学		単位数	時間	履修年次
			1	15	1年次前期
講師名	渡部 誠一		授業形態	講義	
ねらい	人間の行動欲求の規範となるものへの処理・判断の基礎とする。				
目標	1.生命の尊厳を理解できる。 2.人権の重要性が理解できる。				
講義内容 (概要)	1.生命への医学の介入	1)生命への介入の歴史と問題点 2)生命倫理と法			
	2.生を断つことの医学の介入	1)胎児と人 2)医学進歩と課題			
	3.死への医学の介入	1)死とは何 安楽死、尊厳死、医療と宗教か			

	4.医療と法と倫理	1)医療行為と倫理 2)守秘義務と個人情報の保護
--	-----------	-----------------------------

評価方法	・筆記試験
使用テキスト	・塩野寛著、生命倫理への招待、第6版、南山堂、2021
備考	

科目名	社会学	単位数	時間	履修年次
		1	30	1年次後期
講師名	才津 芳昭	授業形態	講義	
ねらい	現代社会の構造や機能、諸問題を学ぶことにより、個人と社会の関わりを理解する。			
目標	1.社会の構造や機能を理解できる。 2.個人と社会の関連性を理解できる。 3.現代社会の諸問題を理解し、自己の生き方に反映できる。			

講義内容 (概要)	1.社会学の基礎 …「常識」を疑うという視点から	1)社会学とは何か 2)「本当の自分」はどこかに存在する？ 3)人間を働かせる動機は何よりお金？ 4)近代化によって核家族化が進んだ？ 5)ネットワーク社会は集団主義を弱める？ 6)仮想現実はあるのか？ 7)科学が進歩すれば宗教は衰退する？ 8)男女の違いは結局のところ、生物学的性差による？ 9)身体は社会や環境から独立した実体？ 10)犯罪の原因は何より犯罪者個人にある？
	2.医療の社会学 …医療と社会はどんな関係にあるのか	1)「病人」とは一種の役割である。 2)「病人」はいかにして「患者」となるか。 3)医師と患者の関係は戦略的な駆け引きである。 4)医療専門職の将来は約束されているわけではない。 5)何が「病気」と認定されるかは、様々な利害関係で決まる。
評価方法	・筆記試験。ただし、コロナの感染状況次第ではレポートになる可能性もある。	
使用テキスト	・使用しない(資料配布)	
備考		

科目名	教育学	単位数	時間	履修年次
		1	30	1年次後期
講師名	本田 辰雄	授業形態	講義	
ねらい	教育原理を学び、看護実践の基礎とする。			
目標	1.人間の成長と教育の意義を理解できる。 2.生涯にわたる教育、学習の意義を理解できる。 3.教育の目的、方法を理解できる。			
講義内容	1.人間と成長と教育の意義	1)看護と教育:指導者の役割	【演習】	

(概要)		2)学校の歴史と現状:指導、指導が必要な課題 3)特別支援教育における看護師の役割 4)教師の仕事とは何か 5)社会に出るための能力 (1)社会人基礎力 (2)看護師に必要とされる力
	2.家庭教育	1)子どもを取り巻く現状「子どもの学力」「食育」等
	3.生涯学習	1)現代教育と教育思想
	4.教育問題と教育	1)不登校、児童虐待、いじめ、体罰、教育格差 2)「叱る」ことの難しさ
	5.命と教育	1)教育・看護の現場で人と関わること、向き合うことの共通点
評価方法	・筆記試験	
使用テキスト	・使用しない(資料配布)	
備考		

科目名	体育	単位数	時間	履修年次
		1	15	1年次後期
講師名	宮澤 優士	授業形態	講義、実技	
ねらい	心身の健全な発達のための体力づくりを学ぶ。			
目標	1.スポーツを通し、健康の保持、体力の維持の必要性を理解できる。			
講義内容 (概要)	1.運動と健康の関連性	1)運動と健康 2)栄養とスポーツ(運動)		

		3)障害者スポーツ論と実際
	2.実技	1)バレーボール 2)バドミントン 3)バスケットボール(ポ-トボール) 4)リミック 5)ストレッチ 等
評価方法	・筆記試験 ・実技 ・出席時間及び授業参加状況	
使用テキスト	・使用しない(資料配布)	
備考		

科目名	運動と健康	単位数	時間	履修年次
		1	15	2年次後期
講師名	宮澤 優士	授業形態	講義、実技	
ねらい	運動と健康の関連性、社会のなかの運動の役割を学ぶ。			
目標	1.運動と健康の関連性を理解できる。 2.社会の中の運動のありかたを理解できる。			

講義内容 (概要)	1.生活習慣病予防のための運動	
	2.生涯を通じての健康づくり	
	3 ストレッチと運動	
	4.運動における外傷予防、応急処置の実際	1)RICE:安静(Rest) 冷やす(Ice) 圧迫・固定(Compression) 挙上(Elevation) 【演習】 2)ストレッチ、トレーニング 等
評価方法	・筆記試験 ・実技 ・出席時間及び授業参加状況	
使用テキスト	・使用しない(資料配布)	
備考		

科目名	外国語	単位数	時間	履修年次
		1	30	2年次後期
講師名	中川 武	授業形態	講義、演習	
ねらい	国際社会に対応できる能力を養う。			
目標	1.日常生活に必要な英会話ができる。 2.看護に必要な医学用語を読むこと・書くことができる。			

講義内容 (概要)	1.来院；翻訳、発音練習、演習 2.初診受付；翻訳、発音練習、演習 3.問診；翻訳、発音練習、演習 4.生活習慣を聞く；翻訳、発音練習、演習 5.症状をより詳しく聞く；翻訳、発音練習、演習 6.診断；翻訳、発音練習、演習 7.脈拍・血圧・体重測定；翻訳、発音練習、演習 8.検査を受ける；翻訳、発音練習、演習 9.薬の説明；翻訳、発音練習、演習
評価方法	・筆記試験(小テスト・最終試験) ・出席時間及び授業参加状況 ・授業ノート
使用テキスト	検討中
備考	

科目名	人間関係論	単位数	時間	履修年次
講師名	長谷 静香	1	30	1年次前期～後期
ねらい	人間関係の構造を実践的に学び、看護師としての人間的要素を高め、看護の対象を理解する基礎とする。			
目標	1.人間関係の基本を哲学的、心理学的な側面から実践的に理解できる。 2.看護の対象としての人間関係を理解し、自己の課題とすることができる。			

講義内容 (概要)	1.人間関係の基礎	
	2.人間関係をつくる理論と技法	1)アドラー心理学 (1)アドラー心理学の5つのポイント (2)勇気づけと共同体感覚
	3.保健医療における人間関係	1)共感とは 2)傾聴的態度 3)カウンセリング的人間関係の4つの条件
	4.モチベーションを高める	1)外発的動機づけと内発的動機づけ 2)他者への関心と貢献・協力
	5.人間関係の構築	1)勇気づけの3条件 2)怒りの感情 3)幸せに気づくための3つの条件
	6.ソーシャルサポート	1)ソーシャルサポート、ソーシャルネットワーク 3)エンパワメントの持つ意味 2)ホームレイションと援助
評価方法	・筆記試験 ・レポート	
使用テキスト	・岩井 俊憲、長谷 静香；看護師のためのアドラー心理学、日本医療企画、2017 ・長谷 静香；看護師のためのアドラー流子育て・自分育て、日本医療企画、2018	
備考	・テキストの機械的理解でなく、テキストの表現を実践派としての立場から主体的に読んでゆくという姿勢を求める	

科目名	コミュニケーション論	単位数	時間	履修年次
		1	15	1年次前期
講師名	清水 登大	授業形態	講義	
ねらい	看護の対象を理解し、人間関係の基礎とする。看護に必要な対人関係における感性を養う。			
目標	1.人間関係の基本を哲学的、心理学的な側面から実践的に理解できる。			

	2.対人関係・コミュニケーションの取り方を理解できる。	
講義内容 (概要)	1.コミュニケーション	1)コミュニケーションとは (1)構成要素と成立過程 2)コミュニケーションの種類 ・言語的コミュニケーション ・非言語的コミュニケーション 3)コミュニケーションに影響するもの
	2.看護におけるコミュニケーション	1)質問技法 2)積極的傾聴と共感 (1)積極的傾聴とは (2)共感とは (3)積極的な傾聴と共感 3)関係構築の技法 (1)感情探索の技法 (2)表出されなかった感情に対応する技法
	3.グループダイナミクス	1)グループダイナミクスとは 2)人間関係についての社会心理学的知見
評価方法	・筆記試験 ・課題レポート	
使用テキスト	・仲間とみがく看護のコミュニケーション・センス、医歯薬出版、2003	
備考		

科目名	カウンセリング	単位数	時間	履修年次
		1	30	2年次前期
講師名	福井 晴那、加地 一貴	授業形態	講義	
ねらい	看護に必要な対人関係における感性を養う。			

目 標	1.カウンセリングの基本的な知識や態度を理解できる。 2.看護の対象としての人間関係を理解し、自己の問題とすることができる。	
講義内容 (概要)	1.カウンセリングとは	・カウンセリングの定義と効果 ・基本的なカウンセリング・アプローチ ・看護とカウンセリング
	2.カウンセリングの諸理論	・精神力動的アプローチ ・認知行動論的アプローチ ・来談者中心のアプローチ
	3.こころの健康 (主な心理的問題)	・こころの健康の考え方 ・代表的なこころの病:気分障害、不安障害、発達障害、接触障害、依存症 等
	4.自分をより深く理解する	・カウンセリングのために必要な自己理解 ・自己理解のためのワーク
	5.傾聴とは	・傾聴の定義と効果 ・傾聴の基本的な態度と技法 ・傾聴のためのワーク
	6.かかわりの築き方	・カウンセリングに必要なかかわりとは ・かかわりの態度と技法のためのワーク
評価方法	・課題レポート	
使用テキスト	・諸富祥彦 [編] :人生にいかすカウンセリング、有斐閣アルマ、2011	
備 考	・より発展的に学びたい際の参考書としては 玉瀬耕治：カウンセリングの技法を学ぶ、有斐閣	

科目名	文化人類学	単位数	時間	履修年次
		1	15	1年次前期
講師名	大森 美保	授業形態	講義	
ねらい	さまざまな人種、言語、生活習慣の違いを理解し、国際化対応の基礎を学ぶ。			

目 標	1.さまざまな環境に適応した人間社会について理解できる。	
講義内容 (概要)	1.文化と未来：文化人類学 はどのような学問か？	1)人類と文化 2)異文化を理解する 3)文化概念の系譜
	2.動物と人間：霊長類は文 化について何を教えてく れるのか？	1)ヒトの文化の中の霊長類 2)霊長類の文化 3)霊長類が果たす役割
	3.環境と生活：文化はなぜ 多様なのか？	1)生体人類学の成立 2)日本における生体人類学の展開 3)人と動物の織り成す社会
	4.セクシュアリティとジェンダー:性の 多義性とは	
	5.民族と国家：集団意識は どのように生まれるのか	1)民族のあいまいさ 2)民族意識
	6.儀礼と分類	1)日常にみられる儀礼 3)行為の目的と形式 2)分類と分類から外れるもの 4)儀礼と歴史
	7.交換と経済:他者とは何 か？	1)経済人類学 3)対抗資本主義 2)象徴的人類
	8.グローバル・イシューと周辺社会	1)グローバルと「グローバル化」 2)いくつかのグローバル・イシュー
評価方法	・筆記試験 ・課題レポート	
使用テキスト	・梅屋潔・シヅメ：文化人類学のレッスン フィールドからの出発、学陽書房、2020	
備 考		